

市政に関する

一般質問の概要

12月13日・14日に議員20名が市の考えをたどしました。
主な質問、答弁の要旨を紹介します。

地域における生活環境の
現状と課題について

創志会 藤澤 菊枝

問 環境問題は私たちが生活する上で無視できないテーマで、取り組みの重要性も高まっています。市民生活において、日々排出されるごみを出すための集積所の設置は欠かせませんが、この集積所の課題について伺います。

また、まちがにぎわうことにより、生活者のみならず、特に、来街者や事業活動に伴うごみの排出量の増加は、解決すべき大きな課題であると考えますが、家庭や事業所から出されているさまざまなごみの排出について、どのような抑制策を考えているか伺います。

答（市長）：10年、20年先を見据え、しっかりとした対策を講じていくため、市民・事業者と行政が共通認識を持った中で、将来に向けた取り組みを検討するしくみを作っていくと考えております。

集積所を設置する十分な場所の確保が難しい地域では、安全面も考慮し、収集終了後は折り畳んで格納できる集積ボックスの設置が有効であると考えており、購入の補助なども含めた支援策を検討していきます。

また、すべてのごみは税金を投入して処理されるため、排出量に応じた費用負担の検討は必要と考えており、今後はごみ全体の減量化を総合的に検討するため、家庭系ごみについては市民を交え、事業系ごみについては商工会議所を中心として、議論できる場を創設したいと考えています。

答（経済環境部長）：ごみの減量化について、現在の取り組みだけでなく新たな取り組みも検討し、一部事務組合を組織する座間・綾瀬両市とも協力しさらなる推進を図ります。



部活動について

創志会 永井 浩介

問 教員の多忙化や部活動の専門性など部活動の在り方について過渡期にきています。そこで、市で実施した教員・生徒へのアンケート結果の内容について伺います。

また部活動は公費支援がありますが、教育活動外のクラブチームなどは保護者負担であるため経済的理由で子どもたちの可能性を諦めてしまう事例があります。貧困家庭へ何か配慮は出来ないでしょうか。

さらに、部活やクラブチームなどの大会で土日の修学旅行に遅れて参加するケースもありますので、修学旅行を原則平日に実施出来ないでしょうか。

答（教育長）：朝や休日等の活動や専門外の顧問など約6割の教員が負担だと回答し、生徒は6割以上の子がもっと活動したいという回答でした。それを踏まえ専門家も交えた協議会を29年度に立ち上げ、部活動の在り方の方針を立ててまいります。

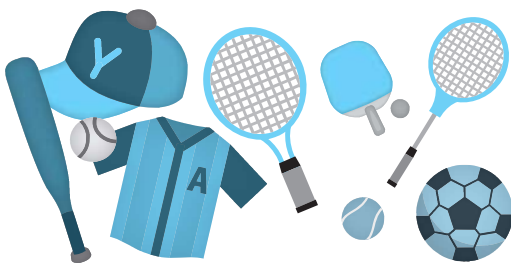
また自分の夢を追いかけるという部分では部活動もクラブチームも同じであると考えます。現在、部活動に対して部活動充実費がありますが、放課後の子供の夢を応援するという事業費として協議会の中で検討していきます。

答（教育部参事）：修学旅行は、新幹線の駅まで大きな荷物を持ってラッシュアワーの中、電車に乗ることを避けるため、土日に実施している学校もありますが、できるだけ大会など配慮しながら日程を組んでいるのが現状です。

その他の質問

・学力向上について

・人口減少に向けた施策について



市民の安全対策向上について

公明党 日吉 弘子

問 現在、高齢化社会が進み災害や事故なども多発する中、市民を守る救急救命体制の強化が必要であり、AEDの積極的な活用が必要になってきます。

そこで、①市民が多く使う施設である学校に屋外型AEDの設置②救急講習を行う指導者の拡大③平成28年度に2中学校において実施された救急講習の拡大一をして頂きたいと思いますが見解を伺います。

また、④救急現場で協力してくれた市民に「勇気をだして行動してくれた住民に感謝」の思いを形にするカードを作成し配布する取り組みについて見解を伺います。

答（消防長）：①小中学校は敷地が広いので、来年度にAEDの増設を考えています。夜間や休日の校庭、体育館の利用者にも活用可能な屋外への増設を検討しています。

②救急講習の講師としての人材育成を目的に、事業所などの従業員を対象にした応急手当普及員講習を来年度から行いたいと考えています。応急手当普及員は、各事業所内で消防職員とともに、指導的立場で救急講習など応急手当の普及啓発に取り組んでいただきたいと思います。

答（教育長）：③命を守る学習計画の中で中学2年生がAEDの学習をすることになっていますが、来年度から全員がAEDを体験できるよう消防署と調整を進めています。

答（消防長）：④救急協力者への感謝と、その方の不安解消を目的に「感謝カード」の配付を考えています。

消防本部の連絡先も記して、自分の応急手当が正しかったかや、感染症の不安などの相談に対応したいと考えています。

その他の質問

・食品ロス削減と循環型社会の実現に向けて



屋外への設置を